



2017/18年度コーヒー輸出量は過去最大を記録

世界のコーヒー輸出総量は、2010/11年度以降毎年増加してきたが、2017/18年度において121.86百万袋と過去最大を記録し前年度対比2%増となった。2018年9月までの12ヶ月間で、アラビカ生豆の輸出数量は70.95百万袋であり前年は70.51百万袋、またロブスタ生豆の輸出数量は39.24百万袋で前年は38.87百万袋である。2017/18年度は主要輸出国10カ国中の4カ国で全形態のコーヒー輸出が増加しブラジルとベトナムはその筆頭である。世界のコーヒー消費量は暫定推計によると161.93百万袋で、アジア・オセアニア地域の消費量が3.1%増の35.9百万袋と牽引した。消費量増加は1.8%と推計されるが、その一方でコーヒー生産量は消費量を1.59百万袋超過した。2017/18年度における価格の下落は、この生産量余剰と輸出数量増加に起因するものである。

図1: ICO日次複合指標価格

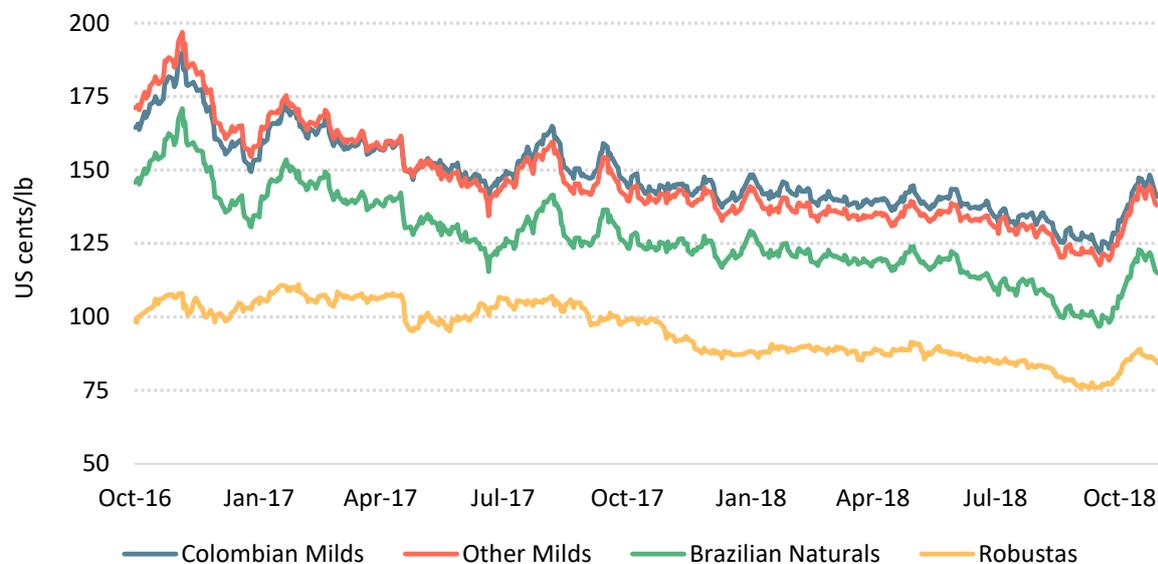


© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

コーヒー価格は過去4ヶ月にわたる下落局面を脱し、2018年10月のICO複合指標価格月次平均は111.21 US cents/lbを付け2018年9月対比13.3%上昇した。上昇したとは言え、その水準は2008年1月から2018年9月までの平均価格138.56 US cents/lbを下回っている。

9月とは対照的に、2018年10月のICO日次複合指標価格は1ヶ月通して100 US cents/lbを上回り、101.04 US cents/lbから116.93 US cents/lbのレンジであった。

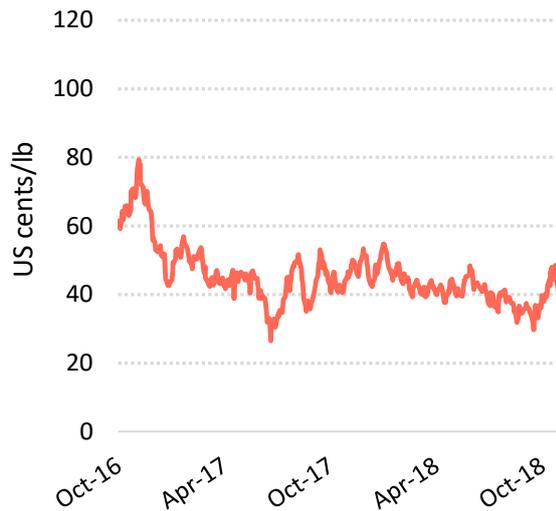
図2: ICO 日次グループ指標価格



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

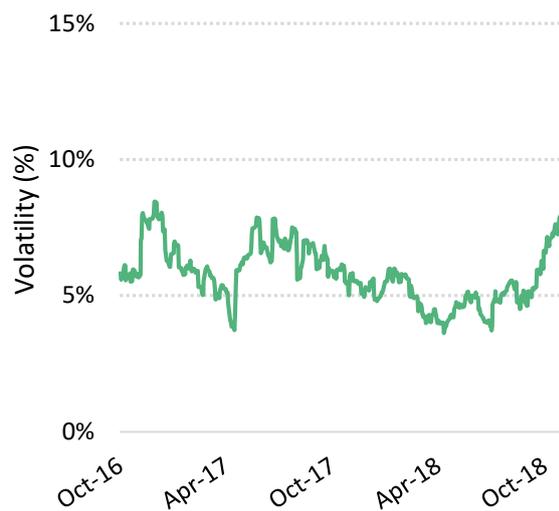
全てのグループ指標価格が2018年10月は前月対比大きく上げた。最大の上げはブラジルナチュラルで15.7%アップの115.59 US cents/lbをつけ、これに次いでアザーマイルドが13.3%アップの137.34 US cents/lbをつけた。コロンビアマイルドは12%アップの140.83 US cents/lbである。アザーマイルドの上げがコロンビアマイルドを上回ったため、その価格差（ディファレンシャル）は23.5%縮小し3.49 US cents/lbとなった。ブラジルレアルの通貨高はブラジルナチュラルの上げ要因であり同時に多くの生産国で新穀スタート時に供給が逼迫したことが指標価格に影響した。ニューヨークとロンドンの先物市場で測定される10月の平均アービトラージは過去3ヶ月の縮小局面から反転し、22.3%拡大して42.57 US cents/lbとなった。過去5年間の月次平均アービトラージは59.87 US cents/lbである。またICO複合指標価格の価格変動率（イントラデイ・ボラティリティ）はすべてのグループ指標価格が上げたことから1.8ポイント上昇し7.2%となった。

図 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

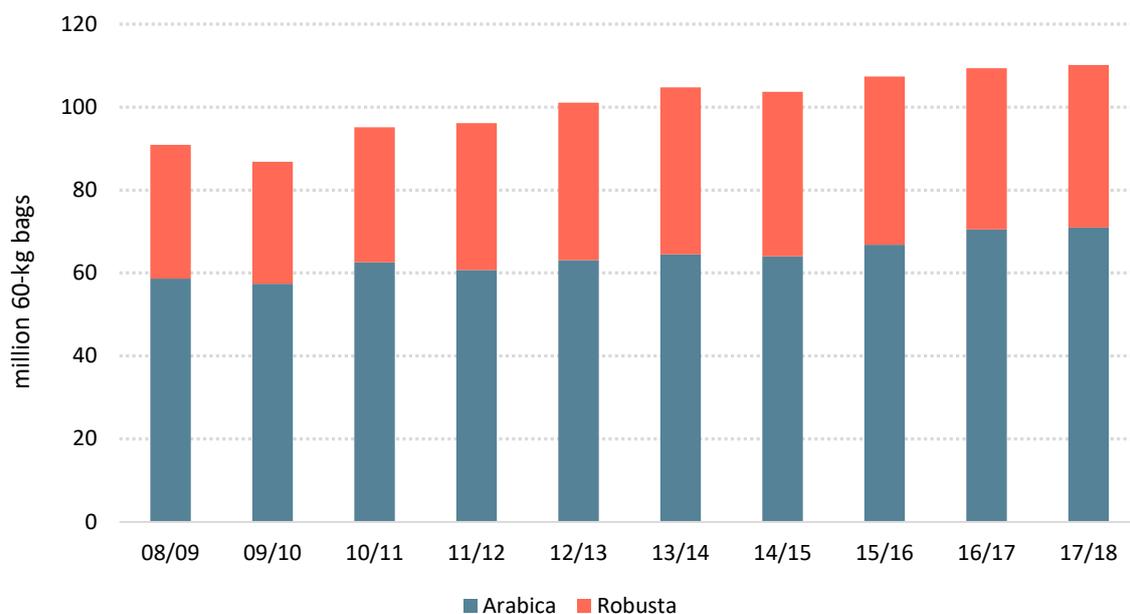
図 4: ICO複合指標価格の30日間移動平均価格変動率



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

世界のコーヒー輸出数量は、2018年9月単月が9.43百万袋で前年9月は8.75百万袋だった。2017/18年度での輸出数量は2%増の121.86百万袋で前年度は119.52百万袋である。2018年9月までの12ヶ月間でアラビカ生豆の輸出数量は70.95百万袋で前年は70.51百万袋、またロブスタ生豆輸出数量は本年が39.24百万袋で前年が38.87百万袋である。2018年9月単月で、ブラジルとコロンビアの2カ国でアラビカ生豆輸出数量全体の60.4%を、またベトナムは1国でロブスタ輸出数量全体の60%を占めている。

図 5: 世界生豆輸出数量



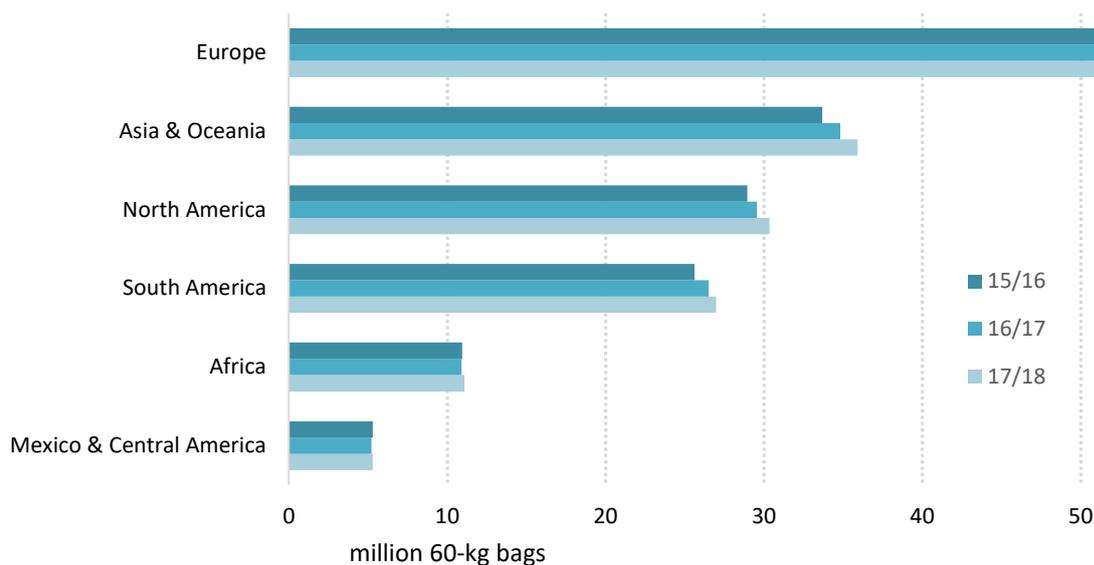
コーヒー主要輸出国10カ国のうち4カ国が2017/18年度に全形態のコーヒー輸出数量を増加させた。ブラジルの2017/18年度輸出数量は32.34百万袋であり2016/17年は31.93百万袋

だった。ただし、ブラジルのコーヒー生産はコーヒー年度で見ると2カ年に跨っており2017/18年度における輸出数量には、比較的到低水準だった2016年4月～2017年3月の生産量と、前年対比14.7%増加した2017年4月～2018年3月の生産量の両方が反映（影響）している。ブラジルの2018年4月～9月の輸出数量は15.52万袋に達しており2017年4月～9月よりも11.2%増加している。ベトナムは2017/18年度に28.64百万袋を輸出した。前年度の23.54百万袋に対して21.7%の増加であり天候に恵まれた生産量の増加を反映している。対照的にコロンビアは生産量の減少により輸出数量が限られたため5.7%減の12.72百万袋となった。ホンジュラスは7.29百万袋の最大輸出数量を記録した後、収穫労働力の不足のために2017/18年度では7.14百万袋に減少した。インドは第5位の輸出国だが2017/18年度輸出数量は1.4%減少し6.28百万袋となった。インドネシアは2016/17年度の8.72百万袋から2017/18年度は5.64百万袋となり減少が最も大きく、生産量の不足と国内需要の増加がこの輸出数量減少に繋がった。ウガンダはホンジュラスと同様、記録的輸出の翌年に減少に転じており、2016/17年度に4.61百万袋を輸出したが2017/18年度では4.36百万袋となっている。ペルーは3.96百万袋で堅調に推移し、エチオピアとグアテマラはそれぞれ4.5%増の3.65百万袋と5.4%増の3.47百万袋である。

世界コーヒー生産量は2016/17年度対比4.8%増の163.51百万袋と推定されている。アラビカが1.7%増の101.23百万袋、一方ロブスタは10.5%増の62.28百万袋である。生産量はすべての生産国で増加しているが、中でもアジア・オセアニアの生産量増加が最大で8.3%増の47.95百万袋となった。これに次いでメキシコ・中米が4.3%増の21.34百万袋である。南米は最大の生産地域でありその生産量は3.3%増の76.98百万袋、またアフリカは3.4%増の17.25百万袋を生産した。

世界コーヒー消費量は、暫定推計によると、161.93百万袋で2016/17年度対比1.8%の増加である。最も増加が著しいのはアジア・オセアニアで前年対比で3.1%増の35.9百万袋と推定され、これに次いで北米が2.6%増の30.34百万袋である。アフリカおよびメキシコ・中米は2016/17年度の消費減少に歯止めがかかり2017/18年度ではそれぞれ、1.7%増の11.08百万袋、1.7%増の5.3百万袋と予想されている。欧州のコーヒー消費は0.5%の成長を維持していると推定されており2017/18年度の推定消費量は52.32百万袋である。南米の消費量は2016/17年度に3.5%増加したが、2017/18年度は1.8%増の26.97百万袋と推定されている。

図 6: 地域別コーヒー消費量



コーヒー消費量が2017/18年度に1.8%増と推計される一方、コーヒー生産量は消費量を1.59百万袋超過している。この生産量余剰が今シーズンの価格下落の要因であり、2017年10月から2018年9月までの複合指標価格平均は111.51 US cents/lbである。これに対し2016/17年度は132.43 US cents/lbであり3.1百万袋の生産量不足を反映していた。加えて2017/18年度のコーヒー輸出数量は過去最大を記録していることから、消費が拡大しているとは言え、2017/18年度当初のマーケットにおいては供給量が勝り更なる価格の下落圧力となった。2017年9月の在庫数量は25.8百万袋、9月としては過去最大であった。

表 1: ICO 指標価格と先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milder	Other Milder	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Oct-17	120.01	144.26	140.71	124.55	98.39	131.00	88.38
Nov-17	117.26	144.09	140.90	124.28	91.33	129.96	81.46
Dec-17	114.00	141.62	137.42	121.47	87.59	125.25	78.30
Jan-18	115.60	143.77	138.81	123.67	88.65	127.65	78.90
Feb-18	114.19	141.50	136.28	120.83	89.24	123.82	80.38
Mar-18	112.99	139.45	135.03	119.80	88.18	121.66	79.86
Apr-18	112.56	139.29	134.34	118.76	88.31	120.17	79.36
May-18	113.34	140.26	135.61	119.57	88.74	122.50	79.85
Jun-18	110.44	138.55	134.03	115.10	86.07	120.19	77.40
Jul-18	107.20	133.92	130.60	110.54	84.42	114.06	75.56
Aug-18	102.41	129.99	125.21	104.46	80.74	108.12	71.94
Sep-18	98.17	125.74	121.18	99.87	76.70	102.83	68.03
Oct-18	111.21	140.83	137.34	115.59	85.32	119.73	77.16
% change between Oct-18 and Sep-18							
	13.3%	12.0%	13.3%	15.7%	11.2%	16.4%	13.4%
Volatility (%)							
Oct-18	7.2%	7.8%	8.0%	9.2%	5.8%	10.7%	6.5%
Sep-18	5.4%	6.3%	6.3%	6.9%	4.9%	8.1%	5.2%
Variation between Oct-18 and Sep-18							
	1.8	1.5	1.7	2.4	1.0	2.7	1.3

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milder	Colombian Milder	Colombian Milder	Other Milder	Other Milder	Brazilian Naturals	New York*
	Other Milder	Brazilian Naturals	Robustas	Brazilian Naturals	Robustas	Robustas	London*
Oct-17	3.55	19.71	45.87	16.16	42.32	26.16	42.62
Nov-17	3.19	19.81	52.76	16.62	49.57	32.95	48.50
Dec-17	4.20	20.15	54.03	15.95	49.83	33.88	46.95
Jan-18	4.96	20.10	55.12	15.14	50.16	35.02	48.75
Feb-18	5.22	20.67	52.26	15.45	47.04	31.59	43.44
Mar-18	4.42	19.65	51.27	15.23	46.85	31.62	41.80
Apr-18	4.95	20.53	50.98	15.58	46.03	30.45	40.81
May-18	4.65	20.69	51.52	16.04	46.87	30.83	42.65
Jun-18	4.52	23.45	52.48	18.93	47.96	29.03	42.79
Jul-18	3.32	23.38	49.50	20.06	46.18	26.12	38.50
Aug-18	4.78	25.53	49.25	20.75	44.47	23.72	36.18
Sep-18	4.56	25.87	49.04	21.31	44.48	23.17	34.80
Oct-18	3.49	25.24	55.51	21.75	52.02	30.27	42.57
% change between Oct-18 and Sep-18							
	-23.5%	-2.4%	13.2%	2.1%	17.0%	30.6%	22.3%

* Average price for 2nd and 3rd positions

表3: 世界コーヒー需給バランス

Coffee year commencing	2014	2015	2016	2017	% change 2016-17
PRODUCTION	149 844	156 332	155 958	163 512	4.8%
Arabica	88 148	96 017	99 589	101 234	1.7%
Robusta	61 695	60 314	56 368	62 276	10.5%
Africa	15 983	15 725	16 685	17 249	3.4%
Asia & Oceania	46 403	49 202	44 290	47 948	8.3%
Mexico & Central America	17 188	17 237	20 465	21 336	4.3%
South America	70 270	74 167	74 518	76 978	3.3%
CONSUMPTION	152 168	156 284	159 057	161 926	1.8%
Exporting countries	47 417	48 673	49 732	50 547	1.6%
Importing countries	104 750	107 611	109 325	111 379	1.9%
Africa	10 709	10 933	10 901	11 084	1.7%
Asia & Oceania	32 775	33 678	34 811	35 904	3.1%
Mexico & Central America	5 230	5 296	5 212	5 302	1.7%
Europe	51 043	51 828	52 070	52 322	0.5%
North America	27 363	28 934	29 559	30 339	2.6%
South America	25 048	25 614	26 505	26 974	1.8%
BALANCE	-2 324	48	-3 099	1 586	

In thousand 60-kg bags

表4: 輸出国のコーヒー総輸出量

	September	September	% change	October-September		
	2017	2018		2016/17	2017/18	% change
TOTAL	8 746	9 427	7.8%	119 520	121 856	2.0%
Arabicas	5 724	6 109	6.7%	76 080	76 664	0.8%
<i>Colombian Milds</i>	1 170	1 181	0.9%	14 674	13 969	-4.8%
<i>Other Milds</i>	1 971	1 931	-2.0%	27 246	28 181	3.5%
<i>Brazilian Naturals</i>	2 583	2 997	16.0%	34 159	34 492	1.0%
Robustas	3 022	3 317	9.8%	43 440	45 215	4.1%

In thousand 60-kg bags

Monthly trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫

	Oct-17	Nov-17	Dec-17	Jan-18	Feb-18	Mar-18	Apr-18	May-18	Jun-18	Jul-18	Aug-18	Sep-18	Oct-18
New York	2.15	2.17	2.23	2.24	2.14	2.21	2.26	2.28	2.33	2.33	2.51	2.70	2.78
London	2.19	2.20	2.09	1.79	1.52	1.37	1.32	1.34	1.14	1.28	1.26	1.51	1.58

In million 60-kg bags

===トピックス===

今月はトピックスとして、9月にロンドンで開催されたICO理事会においてICOエコノミストからプレゼンテーションされた資料を次項の通りご案内します。

Emerging coffee markets: South and East Asiaと題された文書は南アジアおよび東アジアに所在する7つの新興コーヒー市場を対象にICOが実施した調査研究を内容としています。

会員各位のご参考となれば幸甚です。



新興コーヒー市場：南アジアおよび東アジア

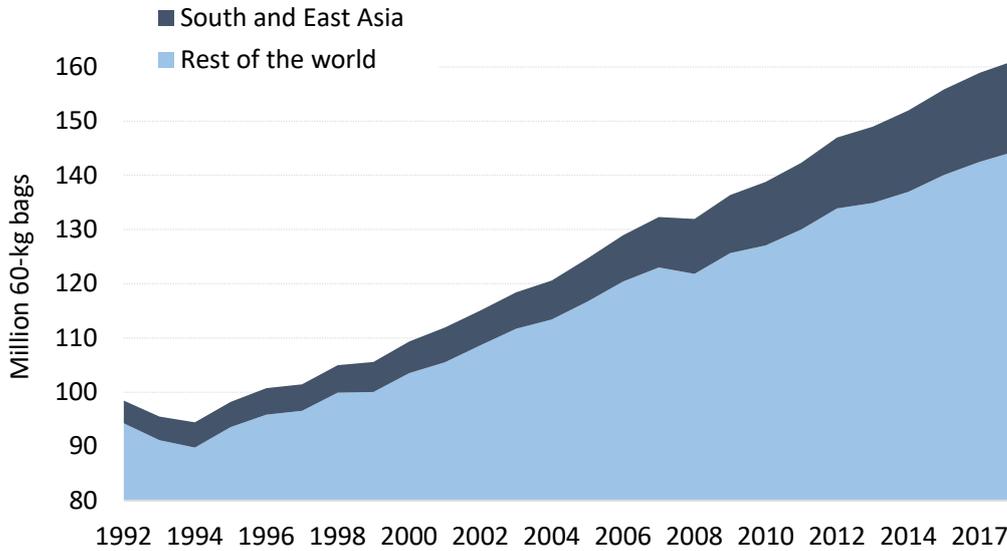
1. イントロダクション

1. 世界のコーヒー市場は過去20年間で60%以上その規模を拡大し消費量は1990年代前半の98百万袋から2016/17年度は161百万袋に達した。
2. この間、コーヒーの世界的需要拠点は、欧州連合（EU）、アメリカ、日本などの既存成熟市場の範囲を大幅に超えて拡大している。コーヒー輸出国では国内消費が増加しているが伝統的に茶を消費する国々であった新興市場では濃い味のコーヒーが普及しコーヒー生産者に新たな市場機会を提供している。
3. 本調査の目的は、南/東アジア地域におけるコーヒー消費の展開について包括的なイメージを提示することである。このレポートで調査された7つの市場は中国、インド、インドネシア、フィリピン、韓国、台湾、ベトナムである。インド、インドネシア、フィリピン、ベトナムの4カ国で南/東アジアのICOメンバーが生産するコーヒーの95%を占め、同時にコーヒー消費国としての重要性を増している。中国、韓国、台湾は非加盟国であり、コーヒー純輸入国である。「南/東アジア」または「(この)地域」という用語は本書中、この7つの国と地域におけるコーヒー市場を指すために使用する。
4. この調査では、タイプ（アラビカ、ロブスタ）と形態（生豆、焙煎、インスタント）による輸入パターンの詳細な分析に加え、セグメント別の消費動向（レギュラーおよびインスタント）と共に地域のコーヒー消費の展開を検証する。
5. 図1は、世界のコーヒー消費量の推移を南/東アジア諸国とその他の2つのグループに分けて示している。この地域のコーヒー消費量は、1992/93年度から2016/17年度の間に年率平均6%の高率で増加しているがその他は年間2%増に留まっている。また各年度がプラスの成長である。2007～2008年の世界的な金融危機の後、コーヒー消費量の年間成長率は、その他は年率平均で1%まで低下したが、南/東アジアは年平均6%の成長率を維持しており、これは同じ期間の実質GDP成長率に近似している。

¹ The term 'country' is used in a broad sense for what are officially classed as 'customs territories', but which may not be countries in the usual sense of the word. The denomination and classification used herein do not imply, on the part of the ICO, any judgement as to the legal or other status of any territory, or any endorsement or acceptance of any boundary.

² This study uses consumption estimates and export data collected by the ICO from Member countries, with import data derived from the reported exports. Export data records all trade transactions at market level, from origin to destination countries. In addition, shares of consumption segments (fresh coffee and soluble coffee) were calculated using a database acquired from Euromonitor International (Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition).

Figure 1: World coffee consumption 1992/93 - 2016/17

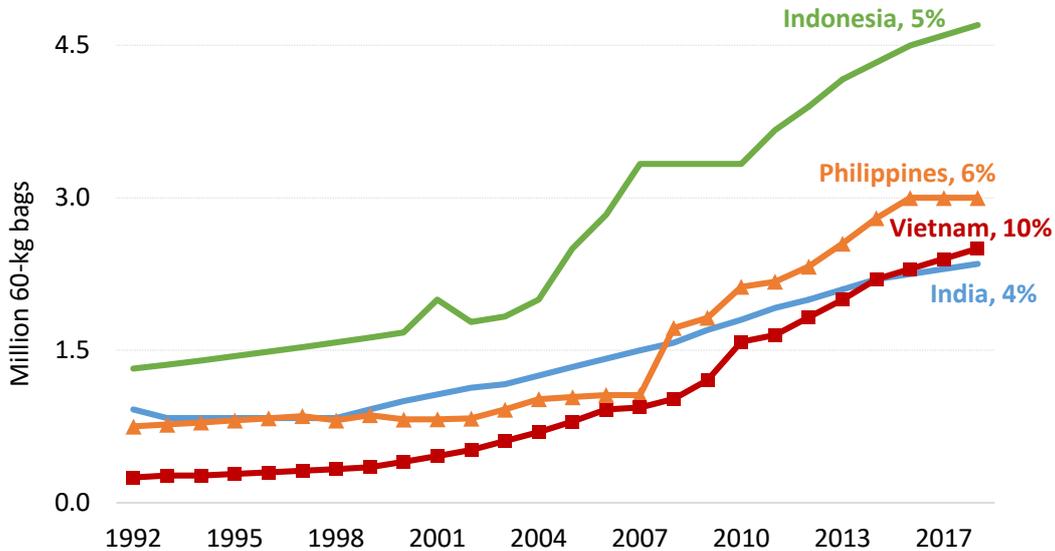


Source: ICO

6. 南/東アジアコーヒー市場ではこの期間の加速的な消費の伸びにより期間全体で消費が4倍増となったのに対してその他は56%増である。南/東アジアの急速な成長の結果、世界のコーヒー消費におけるシェアは、90年代初めの5%から現在の12%に増加した。

7. 南/東アジアの個々の市場を詳しく見ると図2の通り、この地域の各ICO加盟国がそれぞれ国内消費を伸ばしている。4つの市場全体でコーヒー消費量が急増し3.3百万袋から11.4百万袋へとおよそ4倍になっている。

Figure 2: Domestic consumption of coffee 1992/93 - 2016/17



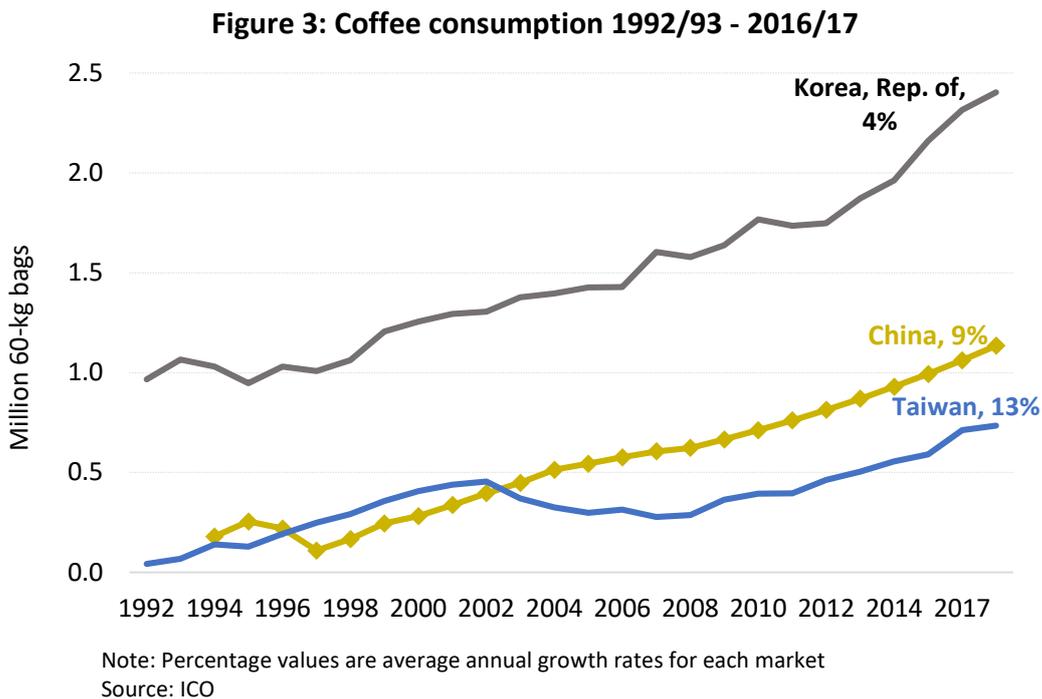
Note: Percentage values are average annual growth rates for each market

Source: ICO

8. これらの4カ国の中で、ベトナム市場が最も高い成長を遂げており、コーヒー消費量は90年代初めの7倍になった。年率平均10%の顕著なコーヒー消費量増加により近年インドのコーヒー消費量を上回っているが（図2）、15歳以上の人口はインドの同年齢人口のわずか8%である。この地域ではインドネシアのコーヒー消費量が最も多く、2016/17年度では4.7百万袋と推定されている。

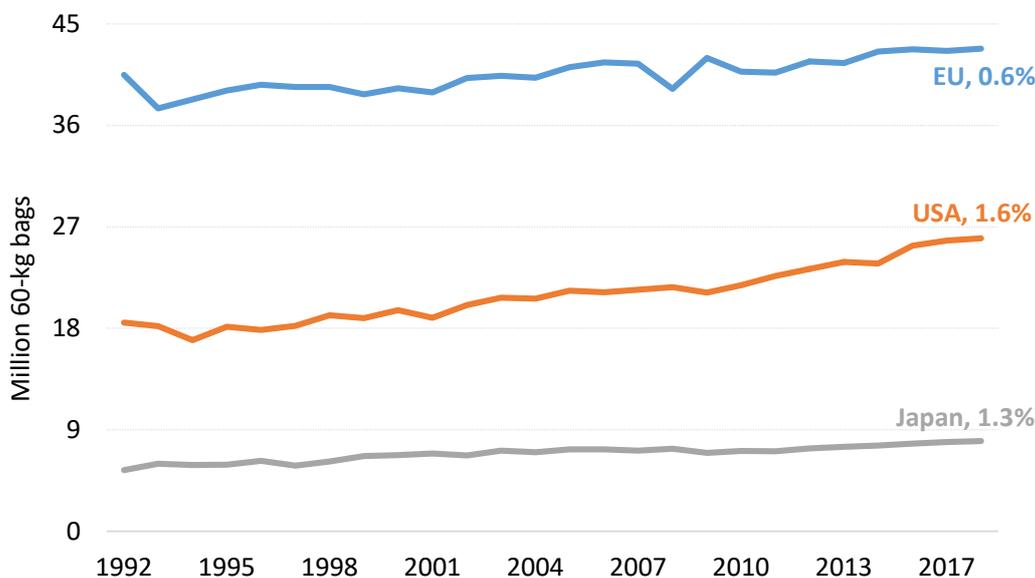
9. 図3は、中国、韓国、台湾のコーヒー消費量の推移を示している。1992年から2017年までの25年間でこれらの市場でのコーヒーの消費量は4倍を超えて増加し成長率は年率平均6%である。

10. 90年代初めからのコーヒー消費量伸び率が最も高いのは台湾で次が中国であり、成長率は年率平均でそれぞれ13%と9%となっているが（図3）、同期間の韓国の総消費量は2倍になっている。



11. 比較すると、伝統的市場である地域内の「日本」およびその他の「欧州連合および米国」のコーヒー消費量は、1992年から2017年までの期間で19%増加し、成長率の年率平均は1%である（図4）。

Figure 4: Coffee consumption in traditional markets 1992/93 - 2016/17



Note: Percentage values are average annual growth rates for each market
Source: ICO

II. 輸 入

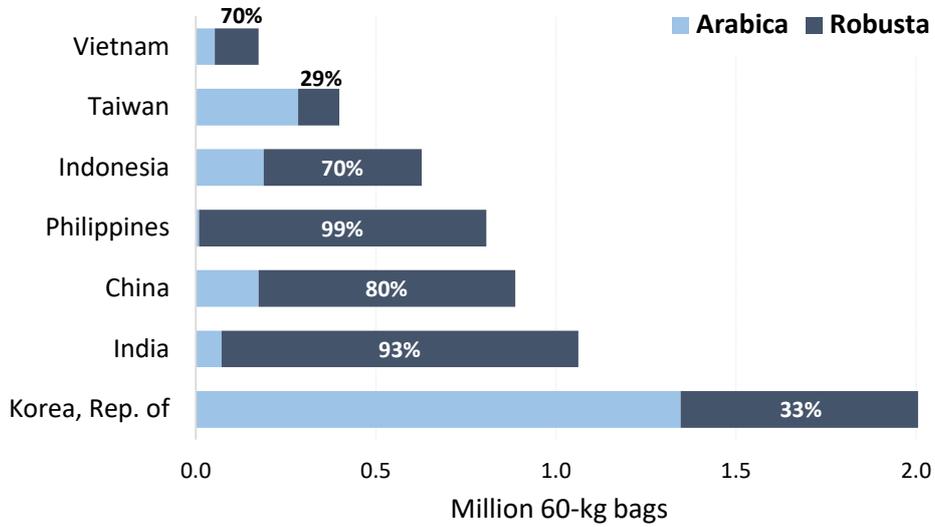
12. 本セクションでは、この地域におけるコーヒーの輸入動向について検証する。ベトナム、インド、インドネシアは重要なコーヒー生産国であり輸出国であるが、アラビカコーヒーに対する国内消費需要を満たすため（ロブスタ生産国の場合）、特定オリジンのアラビカコーヒーを輸入しているが、これはレギュラーコーヒーおよびインスタント加工産業セクターニーズを満たすためのものである。

13. 韓国、台湾、中国、フィリピンは、主として輸入国またはコーヒー純輸入国である。したがって、コーヒーのタイプ別および形態別の輸入動向の検証は国内消費を理解するうえで重要である。

A. コーヒーのタイプ別輸入

14. 図5は、この地域における各市場の2012年から2016年までの平均コーヒー輸入量を示している。平均すると南/東アジアに輸入されたコーヒーの64%はロブスタだった。多くの市場ではロブスタの割合が70%を超えているが、韓国と台湾は例外で輸入コーヒーの3分の2以上がアラビカである。このことは、以下の市場セグメント分析に記載されているように、レギュラーコーヒーに対するこれら市場の選好と一致している。ロブスタは主にインスタントで使用消費されるタイプであり、一方アラビカはレギュラーコーヒーとしての飲用に好まれる。したがって、ロブスタの輸入は地域で加工されインスタント形態で再輸出されるためでもある。

Figure 5: Coffee imports by type, average volume 2012-2016

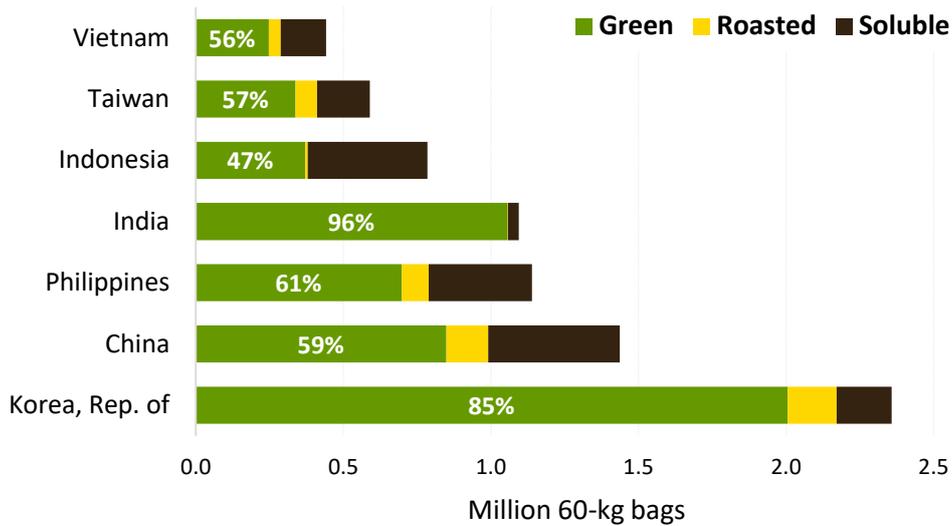


Source: ICO

B. コーヒーの形態別輸入

15. 地域のコーヒー輸入形態を生豆、焙煎、インスタントで見ると、平均すればその70%が生豆であり（図6）、主として地域内で加工されていることを示唆している。唯一、生豆輸入が輸入全体の半分以下であるのはインドネシアで、インスタントコーヒーを中心に加工コーヒー輸入がコーヒー輸入全体の53%を占めている。

Figure 6: Coffee imports by form of coffee, average volume 2012-2016



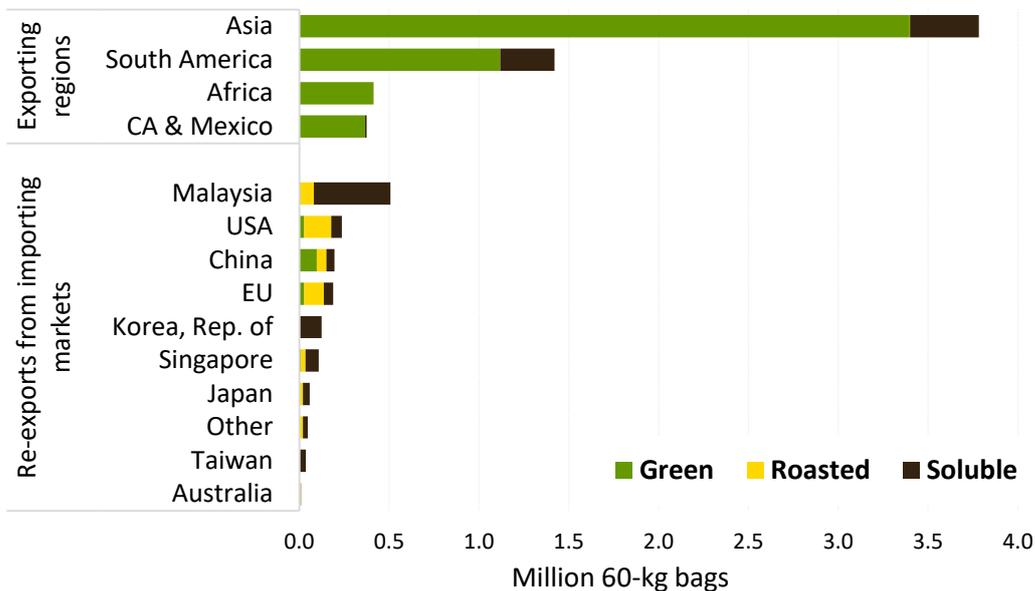
Source: ICO

16. 一般的に、生豆での輸入比率が高い理由としては、関税引上げの結果すなわち加工コーヒーの関税引上げの結果である可能性が高い（アネックス図A1）。これはコーヒー生豆の輸入関税が加工コーヒー関税を上回るインドを除くすべての市場に当てはまる。このことは加工処理と再輸出のためにロブスタコーヒー輸入に集中する産業モデルによっても説明できる。したがって、関税は輸出国における付加価値創出の機会や範囲に影響を与える貿易フローの重要な決定要因である。

17. 輸入コーヒーのオリジン（図7）については、コーヒー生豆の殆どが南/東アジア自身および南米地域から来ているが、同様に南/東アジア市場に輸入された加工コーヒー（焙煎およびインスタント）の3分の1はこれらの国から輸入している。地域内部の貿易総量は60-kg袋で4百万袋に達する（図A2）。図A3は域内での形態別取引を示している。

18. 南/東アジア地域に輸入される加工コーヒーの残り66%は、マーケット内での取引として生豆が生産地域から輸入され国内で加工（再輸出）される形で創出されている。この場合、インスタントコーヒーは主としてマレーシアと韓国から積替業務等により輸入され、焙煎コーヒーは主にEUと米国からの輸入である。

Figure 7. Coffee imports by form of coffee and origin, average volume 2012-2016



CA: Central America
Source: ICO

III. 市場セグメント別コーヒー消費

19. このセクションではコーヒー消費量を、マーケットセグメント別に、またレギュラーコーヒー／インスタントコーヒー別に、Euromonitor International³およびICOによる市場占有推計を用いて分析する。

A. レギュラーコーヒー

20. 2017年のこの地域のレギュラーコーヒー最大消費市場はインドネシアであり、これに続いてベトナムと韓国である。（図8）

21. 図8は、2003年から2017年までの各市場におけるレギュラーコーヒー消費量の推移である。棒グラフの棒の高さは各年度の年間消費量を示している。

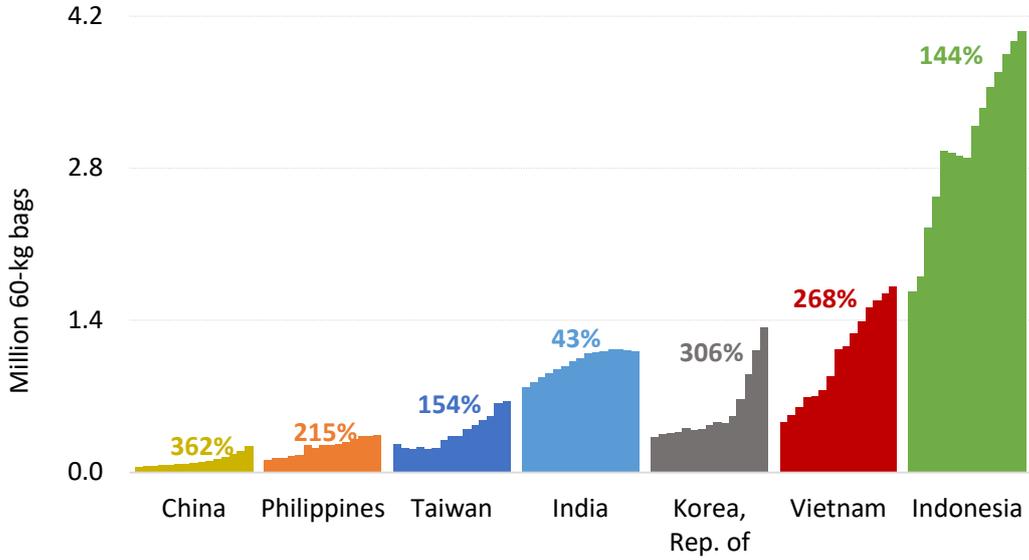
この15年間、レギュラーコーヒー消費量は地域全体で年率平均7%増加しており、インドの3%から中国の12%に及ぶ。インドネシア、ベトナム、インドは一貫して伸びたが、その一方で、2013年以降は韓国が急激に伸長した。15年間で最大の伸びを記録した国（伸び率）は中国（362%）と韓国（306%）で、これに続いてベトナム（268%）、フィリピン（215%）である。

22. 一人当たり消費量では、台湾がレギュラーコーヒー消費をリードしており、それに続いて韓国、ベトナム、インドネシアである（図9）。一人当たりの消費量はすべての市場で増加しているが、特に台湾と韓国が最近になって飛躍的増加を示している。全体として地域のレギュラーコーヒー1人当たり消費量は年率平均7%で増加しており、中でも中国が11%の高い伸びを示し、韓国（9%）、ベトナム（8%）が続いている。

³ Data from Euromonitor International is estimated in tons of coffee consumed from 2003 to 2017. The data was converted into 60-kg bags of green bean equivalent (GBE) using ICO conversion factors, as defined in the Annex of the International Coffee Agreement 2007 and revised in document [ED-2123/11](#), and segment shares calculated.

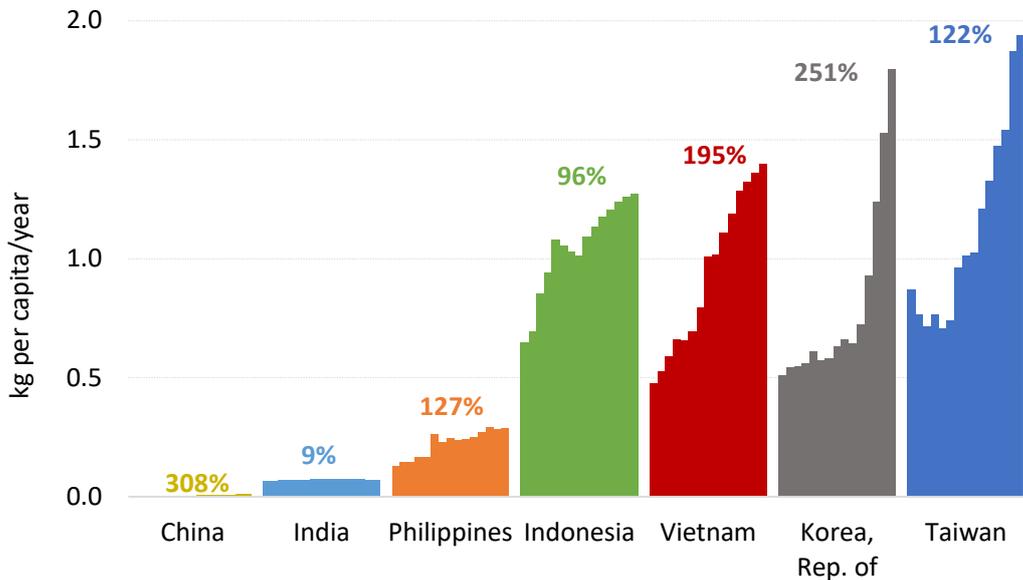
⁴ Per capita consumption is calculated using total population above 15 years old. Population data was obtained from the World Development Indicators of the World Bank, available at: <https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.1564.TO>

Figure 8: Fresh coffee consumption 2003-2017



Source: ICO and Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition. ICO calculations

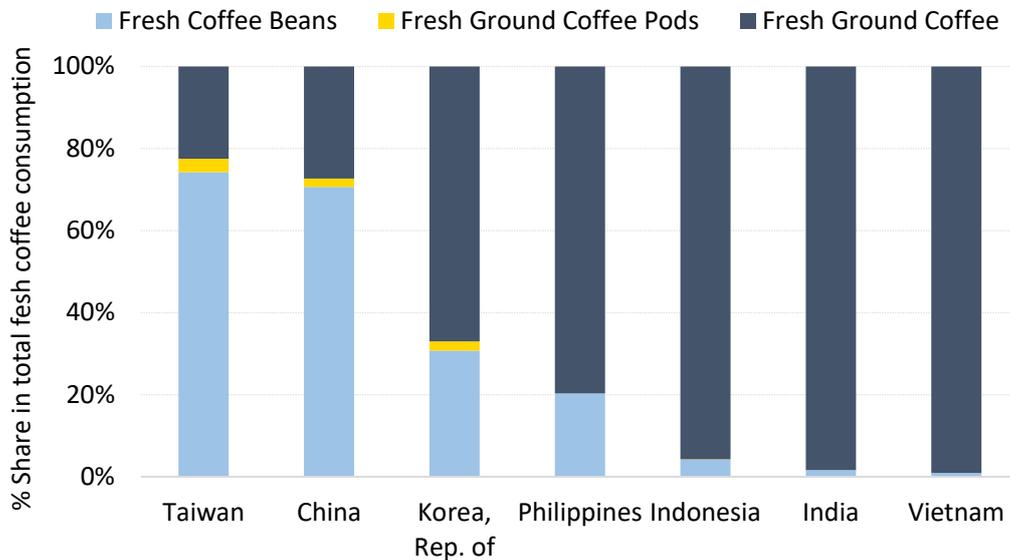
Figure 9: Fresh coffee consumption per capita (population aged 15 and above)



Source: ICO and Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition. ICO calculations

23. レギュラーコーヒーは、焙煎コーヒー豆、挽いたコーヒー、またはコーヒーポッドとして消費される。台湾と中国ではレギュラーコーヒーは焙煎豆の形式で流通消費されるが、他の5つの市場では挽いたコーヒーが好まれる（図10）。中国、韓国、台湾ではコーヒーポッドが増加傾向にあるが依然として規模は小さく、この3市場平均でレギュラーコーヒー消費量の2.5%を占めるに過ぎない。

Figure 10: Fresh coffee consumption by sub-segments 2017, % share



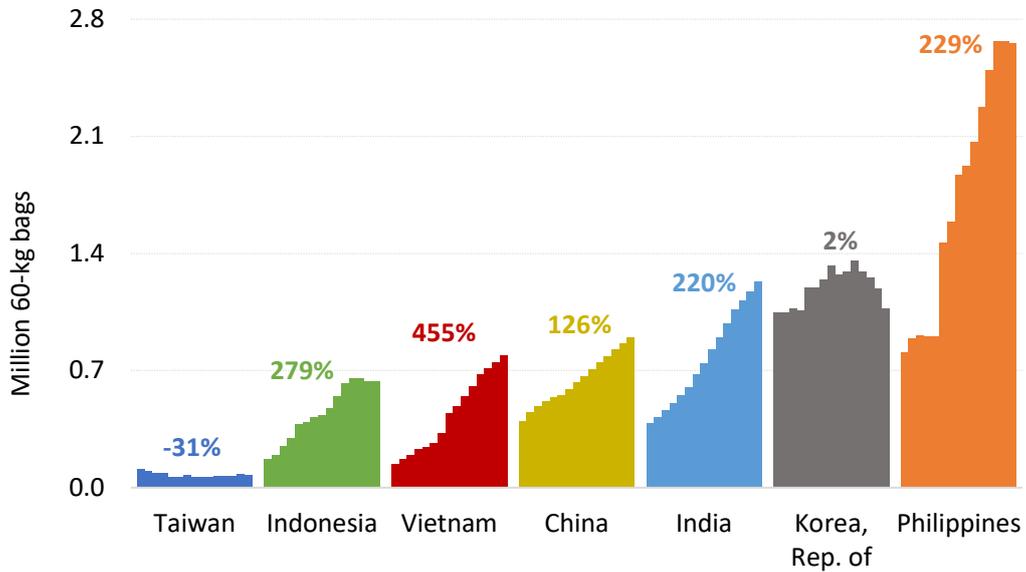
Source: ICO and Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition. ICO calculations

B. インスタントコーヒー

24. ソリユールコーヒーまたはインスタントコーヒーの消費量はフィリピンで最も多く、韓国とインドがそれに続いている（図11）。過去15年間、地域のインスタントコーヒー消費は高率で増加しており、ベトナム（13%）、インドネシア（10%）、フィリピン（9%）、インド（9%）となっている。しかし、この傾向は韓国と台湾においては逆で、インスタントコーヒーと比較してより高価なレギュラーコーヒーへの嗜好を示している。

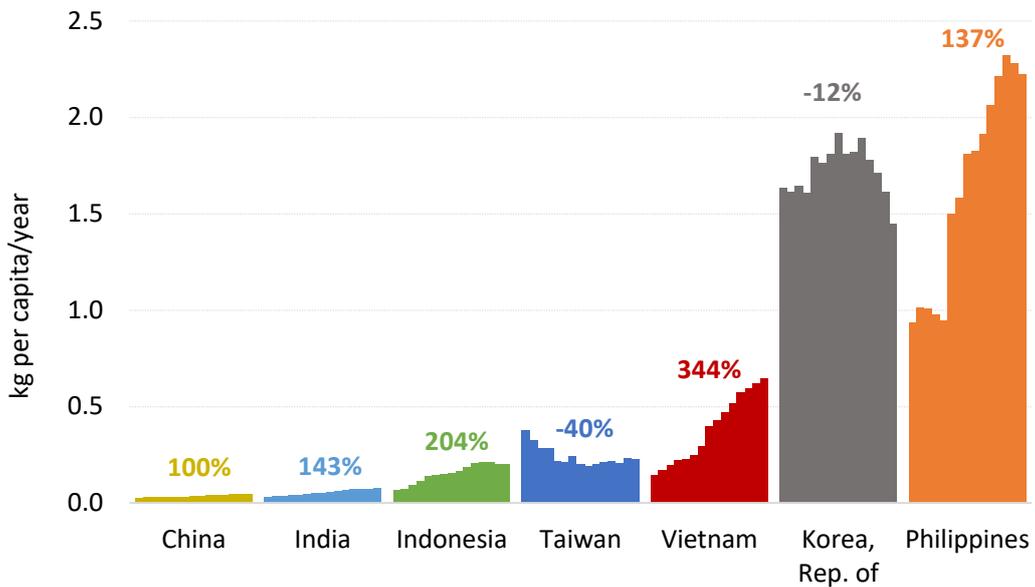
25. 一人当たり消費量ではフィリピンと韓国がインスタントコーヒー消費量をリードしておりベトナムが続いている（図12）。一方で台湾と韓国では一人当たり消費量動向でもインスタントコーヒー需要は減少を示している。ベトナム、インドネシア、インド、フィリピン、中国では着実に増加が見られるが近年、消費量の成長率は減速している模様である。これは、所得水準の上昇の結果、長期的視点で見ると消費者嗜好がレギュラーコーヒーに移行していることを示している可能性がある。すでに韓国と台湾でインスタントコーヒー消費はピークに達したと思われ、これにインドネシアとフィリピンが続いている。

Figure 11: Soluble coffee consumption 2003-2017



Source: ICO and Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition. ICO calculations

Figure 12: Soluble coffee consumption per capita (population aged 15 and above)



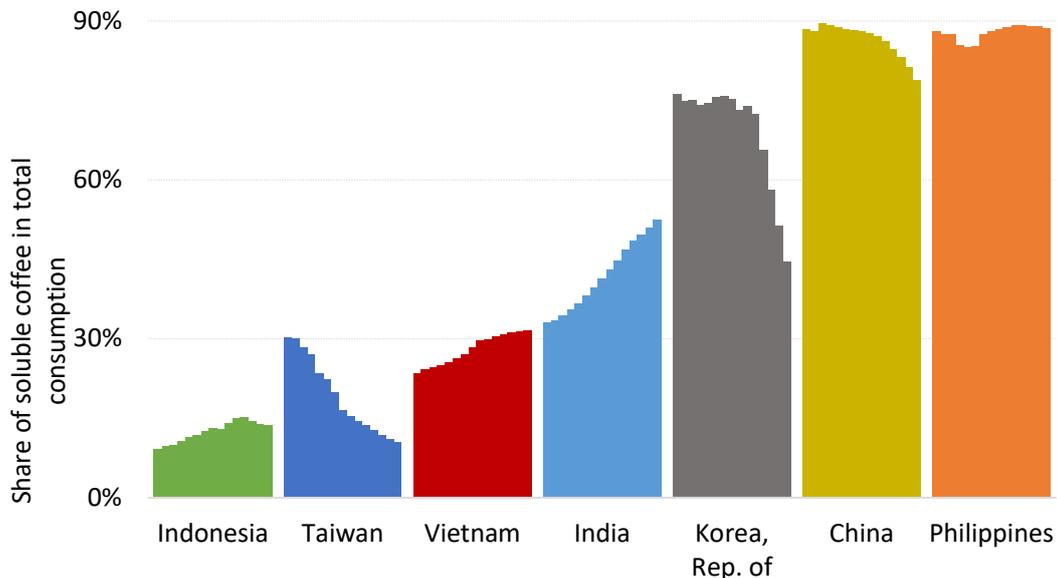
Source: ICO and Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition. ICO calculations

C. マーケットセグメント比較

26. 図13は、南/東アジア各市場でのコーヒー消費量におけるインスタントコーヒーの割合を示している。2017年にはこの地域で消費されたコーヒーの44%がインスタントコーヒーだった。

27. 上記のセグメント分析は、主要コーヒー消費国であるインドネシアとフィリピンで、その消費パターンが大きく異なることを示している。インドネシアではレギュラーコーヒーがインスタントコーヒーよりも消費割合が大きい（86%）が、フィリピンではインスタントコーヒーがコーヒー総消費量の89%を占めている。
28. 消費者の嗜好は変化しており、いくつかの市場ではインスタントコーヒーよりもレギュラーコーヒーを嗜好している。これは、過去15年間にインスタントコーヒーのシェアがそれぞれ10%, 20%, 32%低下した中国、台湾、韓国に当てはまる。特に中国はレギュラーコーヒー消費量がインスタントコーヒーよりも高率で増加している急拡大市場である。
29. 対照的に、ベトナムとインドではインスタントコーヒーは依然として市場シェアを獲得しており、フィリピンとインドネシアでは安定したシェアを維持している。ベトナムはこの地域のインスタントコーヒー消費伸長をリードしているが、同時にレギュラーコーヒー市場でも消費拡大の強い原動力であることを示している。インドでは主にインスタントコーヒーを中心にコーヒー消費は着実に伸びている。

Figure 13: Share of soluble coffee in total consumption 2003-2017



Source: ICO and Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition. ICO calculations

30. 一人当たりでは、台湾はレギュラーコーヒー消費量が最も大きく、フィリピンはインスタントコーヒー消費需要の第一位である。レギュラーとインスタント双方を通じて地域内でコーヒー需要が最も多かったのは韓国で、2017年一人当たり消費量は3.2kgである。

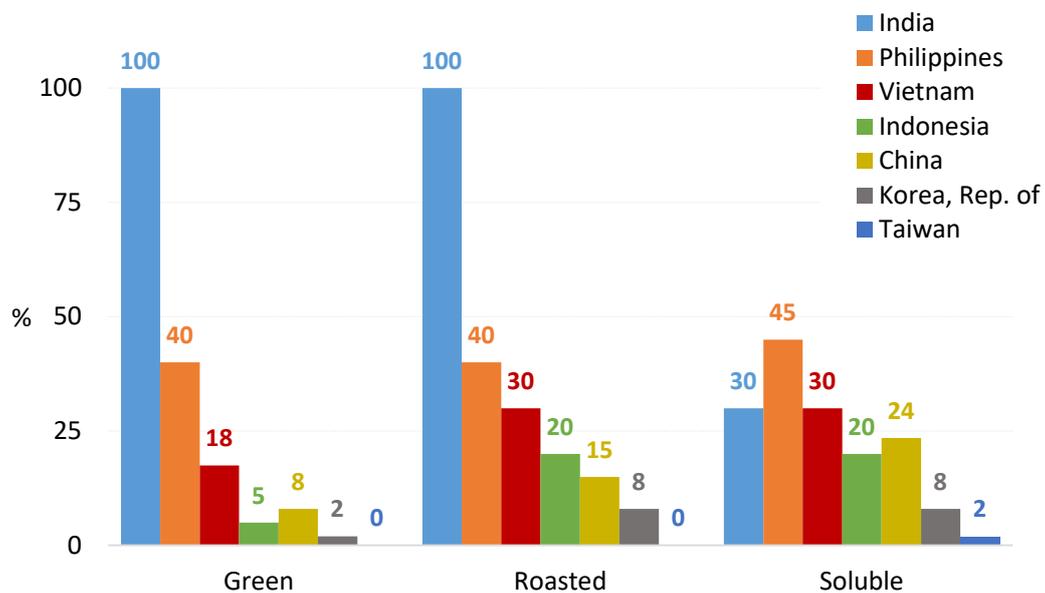
IV. 結論および所見

31. 本調査では、中国、インド、インドネシア、フィリピン、韓国、台湾、ベトナムの7つの南/東アジアの新興コーヒー市場における消費動向を分析した。2016/17年度では7市場の合計で16.8百万袋のコーヒーが消費されている。

32. 主な調査結果は次のとおり。

- (a) 南/東アジア地域の新興市場におけるコーヒー消費量は、2007～2008年の世界的な金融危機の後、コーヒー消費量の伸びが1%に低下した世界の他地域に対して、年率平均6%の高い成長を果たした結果、この地域は世界コーヒー消費シェアの12%を占めるに至った。
- (b) 2016/17年度において、インドネシアは同地域で最大のコーヒー消費国でありその消費量は4.7百万袋、一方、韓国は一人当たり3.2 kgのコーヒーを消費する主要消費国である。
- (c) この地域で輸入されるコーヒーの太宗はロブスタであるが、レギュラーコーヒー消費を嗜好する市場ではアラビカの輸入が上回っている。
- (d) 加工コーヒー200万袋がこの地域に輸入され、その3分の1はアジアと南アメリカのコーヒー生産地域からの輸入である。域内貿易としてはアジアからのコーヒー輸入が主にベトナム、インドネシア、インドからであることを示している。焙煎コーヒーは主に米国やEUなどの伝統的な市場から輸入されている。
- (e) 消費者の嗜好は変化しており、インスタントコーヒーが伝統的に消費されてきた市場でもレギュラーコーヒー嗜好が認められる。インスタントコーヒー消費は韓国と台湾でピークを迎えておりインドネシアとフィリピンがこれに続くものと見られる。レギュラーコーヒーが増えるにつれてインスタントコーヒーは更に減少すると予想される。
- (f) ベトナムは、地域内のインスタントコーヒーの成長をリードしているが、レギュラーコーヒー消費においても強い原動力であることを示している。インドでは主にインスタントコーヒーの消費によりコーヒー消費が着実に伸びている。

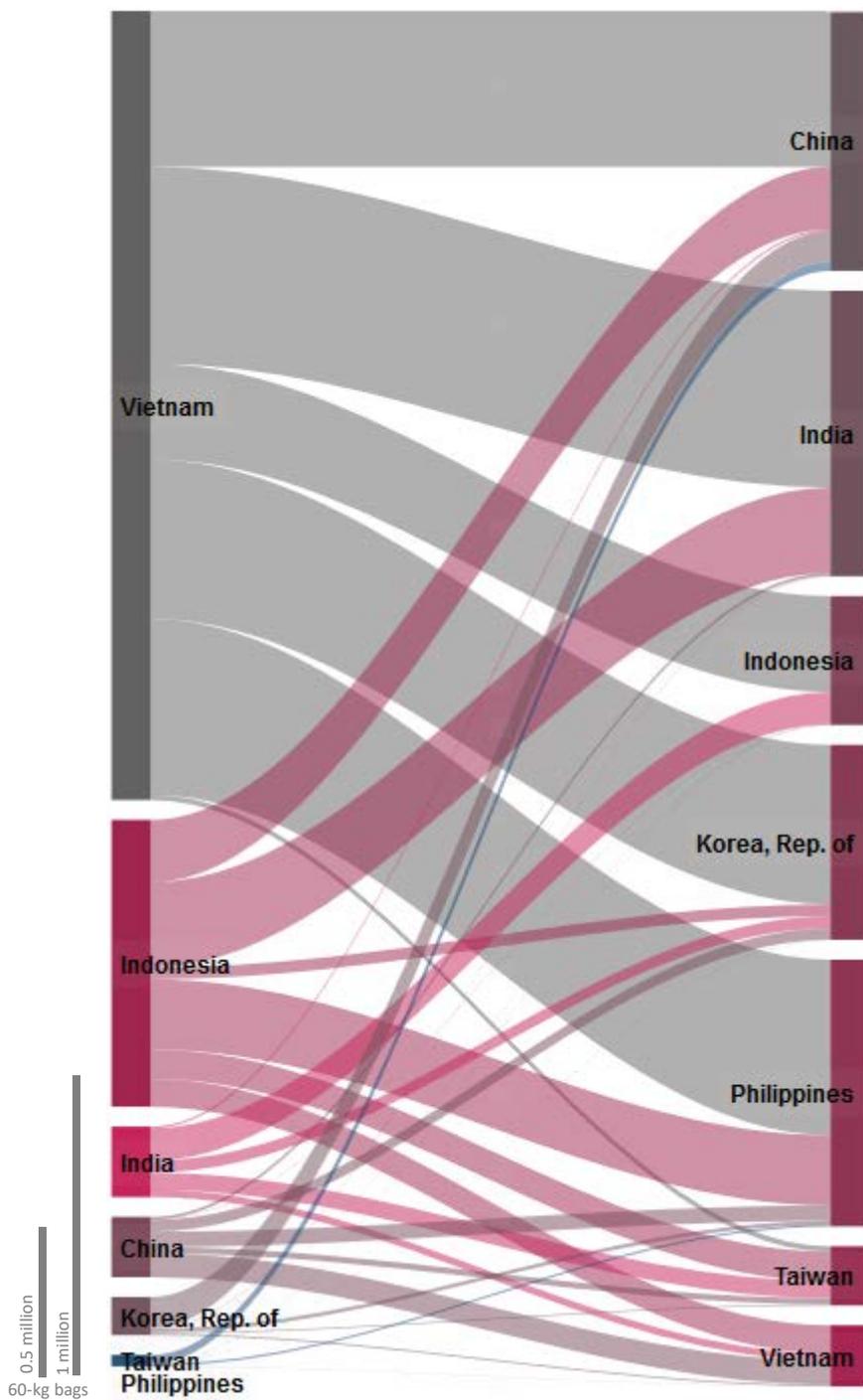
Figure A1. MFN tariff level for coffee, 2017



Note: Indonesian data is for 2016

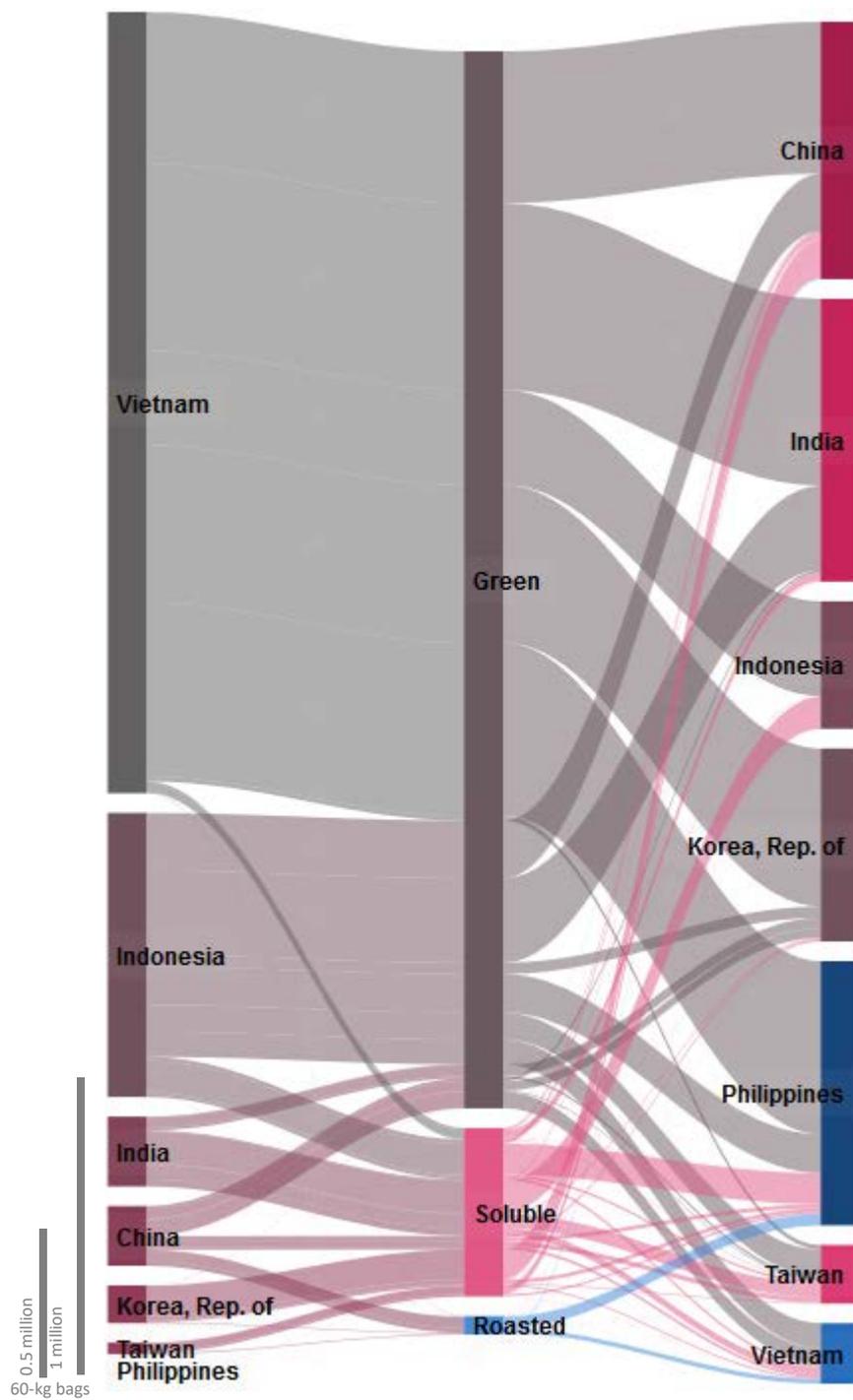
Source: WTO - Tariff Download Facility, <http://tariffdata.wto.org>

Figure A2. Inter-trade South and East Asia 2012-2016



Source: ICO

Figure A3. Inter-trade South and East Asia by form of coffee 2012-2016



Source: ICO